

クロマツ林を守ろう

クロマツ林に入ってみよう！

■クロマツ林を守るといふこと

◆きびしい環境に耐える木

クロマツは、他の樹木が生きられないような厳しい環境に耐えられる特性のある木です。そのため、昔から防風、防砂林として海岸に人の手により植えられ、今では海岸の景観を構成する重要な要素の一つとなってきました。

◆植物同士の競争

このようにクロマツは塩の害に強く、砂地のような少ない養分の場所でも育つことができる木ですが、クロマツ林として完成すると、林の中は塩の害も少なく、落ち葉などが堆積して、広葉樹が入りやすい環境となってきます。光をたくさん必要とする広葉樹は成長も早く養分や水分をたくさん必要とするため、クロマツは競争に負けてしまいます。

◆クロマツ林を守るために

●落ち葉かき

昔は、林の中の落ち葉や松かさを集めて、焚きつけなどの燃料としていましたが、1950年代の終わり頃からプロパンガスなどが使われるようになり、落ち葉が集められることがなくなりました。そのため、林の中は落ち葉がたまって、広葉樹が育ちやすくなり、林の中に低木や草がたくさん生えるようになってきました。クロマツ林を守るためには、昔ながらの落ち葉かきを行うことが必要です。

●下草刈り

クロマツ林の中に低木や草がたくさん生えると、林の地面に光が届かなくなり、クロマツの種が発芽できなくなります。下草刈りはクロマツの世代更新を促すために欠かせない大切な作業です。



●強い海風の影響を受けたクロマツ



●クロマツの松かさ

■クロマツ林とキノコ

◆クロマツとシモコシの共生関係

シモコシはクロマツの根に寄生する菌根菌と呼ばれる種類の菌で、菌糸が地上に伸びてキノコになったものです。シモコシはクロマツが土から水分や養分を吸収するのを助け、代わりにクロマツから炭水化物をもらうという共生関係を作っています。

◆シモコシ

シモコシは10月下旬から11月下旬頃に発生します。

かさの大きさは5～10cmで、湿っているときは粘りがあります。ヒダ、柄も黄色で、肉は白く締まっています。海岸の砂地の落ち葉が厚く積もったクロマツ林に、落ち葉に埋もれながら生えています。地表に出る前のものが美味しいと言われているので、落ち葉が盛り上がった部分をかき分けて探します。



●シモコシ

テーマ 9 クロマツ林を守ろう

■伝統的な落ち葉かき

◆ごんのさらい※（山元町）

山元町の伝統的な落ち葉かきの方法を「ごんのさらい」といいます。クロマツの落ち葉を集め、独特な形にたばねることにより、家に持ち帰りやすくします。クロマツの落ち葉は、かまどなどの焚きつけとしていました。



1. 熊手で落ち葉を集めます。 2. 足と熊手を使って形を整えます。

3. 縄で結わえます。

4. 背負って家まで持って帰ります。

※ごんのさらいの「ご」とは、山元地域の方言で「松の枯落葉」を指します。

●ごんのさらいの達人
齋藤 正さん（山元町在住）



■クロマツ林に入るときに準備すること

クロマツ林は財産で、所有者や管理者がいますので、事前に許可をとる必要があります。また、活動内容によっては管理者の方などの協力を得て実施することが必要な場合もあります。

仙台湾南部海岸一帯のクロマツ林は保安林指定となっているため、活動の内容によっては許可が必要な場合があります。

●宮城県の保安林制度についてはこちらに詳しい情報が掲載されています。
<http://www.pref.miyagi.jp/sinrin/tisan/hoanrin/hoanrin.htm>

■活動団体

クロマツ林を守るための学習を行う際に、作業のより詳しい意味や作業の手順などについては、実際に活動を行っている団体から資料提供や講師派遣などの協力を得て行くと、より学習効果が高まると期待できます。

<亶理地区海岸林保護組合連合会>

●活動内容：1. 海岸林の不法投棄ごみ処理の実施とごみ不法投棄防止パトロール・2. 森林火災防止パトロール・3. マツクイムシ防除薬剤散布・4. 下草刈りなどの活動を行っています。

●連絡先：「亶理地区海岸林保護組合連合会」 会長：佐々木 長三郎

〒989-2331 亶理郡亶理町吉田字砂浜2-183 TEL:0223-36-3044